



個性と創造性を培う ころころ豊かな まちづくり

【教育・文化】

基本目標 3

3-1 学校教育環境の充実

■ 現況と課題

本市の児童・生徒数は、平成28年5月1日現在、それぞれ1,711人、973人で、近年ともに減少傾向にあります。

社会問題として、子どもの学力や学習意欲の低下が提起されていますが、本市教育研究所の研修等により教職員の資質の向上を図るとともに、市の独自事業として少人数支援員、学級支援員、特別支援教育アシスタント、学校図書館司書、英語インストラクターおよび外国語指導助手を配置し、教育体制の充実を図っています。

また、中学生から職場体験学習を通じて、職業観や人生観を段階的に育てるキャリア教育を行っていますが、地域資源を活かした郷土学習や、災害に適切に対応する能力等を身につける防災教育等の社会学習も拡充していくことが求められています。本市にある県立海津明誠高校についても、高校生が地域の活動に積極的に参加し、地域のなかで多様な体験・つながりを通して成長できる教育環境づくりが求められています。併せて、子どもの心の問題への対応も教育現場に求められており、子ども自らが悩み事を相談できるスクールカウンセラーや教育相談員による相談を定期的に開催しています。

学校教育施設については、耐震補強工事が施されていますが、全体的に老朽化しており、大規模改修等を計画的に実施し、維持・管理を行う必要があります。

近年の出生率低下により、今後も児童・生徒数の減少が懸念されることを考え、施設の適正配置について検討していきます。

市内の小中学校、公立保育園・幼稚園・認定こども園の給食は、海津市学校給食センターから一括して配食されています。効率的な運営を目指して、調理・配送業務の民間委託を実施しており、今後も、衛生管理や事故防止の徹底を図りながら、さらなる効率的な運営を目指します。

■ 小中学校の状況

単位：人、校 各年度5月1日現在

	小学校					中学校				
	児童数	小学校数	一校当りの児童数	教員数	教員一人当りの児童数	生徒数	中学校数	一校当りの児童数	教員数	教員一人当りの生徒数
平成20年度	2,157	10	215.7	147	14.7	1,175	4	293.8	86	13.7
平成21年度	2,092	10	209.2	148	14.1	1,156	4	289.0	84	13.8
平成22年度	2,059	10	205.9	148	13.9	1,132	4	283.0	83	13.6
平成23年度	2,034	10	203.4	151	13.5	1,110	4	277.5	88	12.6
平成24年度	1,954	10	195.4	145	13.5	1,047	4	261.8	90	11.6
平成25年度	1,911	10	191.1	145	13.2	1,032	4	258.0	90	11.5
平成26年度	1,843	10	184.3	169	10.9	1,000	4	250.0	97	10.3
平成27年度	1,812	10	181.2	178	10.2	989	4	247.3	98	10.1
平成28年度	1,711	10	171.1	165	10.4	973	3	324.3	82	11.9

資料：学校基本調査

■ 基本方針

子どもたちが、時代の変化に柔軟に対応できる幅広い知識と視野を身につけることができるよう、小中学校はもちろん就学前教育も含め、学校施設・教育内容の充実や教職員の資質向上を推進します。

■ 施策の方向

1. 学校教育の充実

児童・生徒一人ひとりの基礎学力の向上を図るとともに、個性や能力を伸ばす教育を推進するため、少人数支援員や学級指導員、特別支援教育アシスタント、学校図書館司書の配置を図り、きめ細やかな学校教育の実現に努めます。パソコン支援員の派遣や、小学校への英語活動インストラクター、小中学校への外国語指導助手(ALT)の配置を行い、情報社会、国際化社会に対応する教育内容の充実を図るとともに、環境共生社会に対応する野外・校外活動や職場体験を通じたキャリア教育、ふるさとの歴史や自然を学び郷土愛を育む郷土学習等を推進します。また、教育研究所の各種研修機会や教育専門指導員の派遣を通して、教職員の指導力の向上を推進し、指導体制の充実を図ります。

また、海津明誠高校の高校生が地域の関係施設や人材を教育資源として有効に活用するなど、地域のなかで多様な体験やつながりを通して成長できる環境づくりを進めます。

2. 子どもの人間形成づくりの支援

誰もが教育を受けることができるよう、就学奨励支援や特別支援学級の充実を図り、遠距離通学の児童に対しては、スクールバスの運行を継続します。また、こども園等の就学前施設において、幼児教育・保育の充実と小学校との連携を推進するとともに、小中学校と海津明誠高校との連携を推進し、連続した切れ目のない人材育成体制を目指します。

不登校やいじめ等の子どもの悩みに対し、スクール相談員を派遣して心の教室を設置し、相談や家庭訪問、学習支援等を行い、学校や家庭、地域と連携した支援を推進します。また、人権尊重都市宣言に基づき、教職員の人権教育の一層の推進により、差別のない社会を目指す教育に努めます。

3. 学校施設・教育設備の充実

情報社会に適応する人材育成のために、小中学校における児童・生徒のパソコン使用の環境整備や電子黒板等、情報教育機器の充実を図るとともに、教育課程に適合した教材、教具の整備に努めます。また、安全で安心な学校施設とするため適時改修等を行います。

4. 学校規模の適正化

一人ひとりの児童・生徒が多様な考え方を持つ集団の中で、互いに認め合い、協力することを通して資質や能力を伸ばしていく教育上の観点から、児童・生徒数が減少するなか、学校の規模を適正に保つため、保護者をはじめとして学校運営にご協力いただく地域の皆様を中心に教育者等有識者を加えた会議を設置して意見を聴取するなど、現状の把握に努め、学校の統廃合について継続的な検討に努めます。

個別計画 海津市教育振興基本計画

成果指標	現状値	目標値 (H33)
学校が楽しいと思っている児童・生徒の割合	80% (H27)	100%

3-2 生涯学習環境の充実

■ 現況と課題

生涯学習は、市民一人ひとりの生きがいづくりだけでなく、地域を支える人づくりであり、地域における社会関係、人間関係を豊かにするものです。「いつでも、だれでも、どこでも、何からでも」学べる機会の提供を目指しています。

本市では、文化センターや文化会館、生涯学習センター、働く女性の家等を会場として、数多くの講座を実施してきました。現在、各種講座で学んだ市民により、学習修了後に発足された自主的なクラブ・サークルが多数活動しています。

講座の開催については、今後、多様で高度化した生涯学習ニーズに対応し、誰もが自由に学べる機会の充実を図るため、地域の実情に即した生涯学習の企画を検討していく必要があります。また、自主的なクラブ・サークル活動の継続・発展のためには、各種の支援を図っていくことが必要です。

市内 3 カ所の図書館では、読書の好きな市民を育てる取り組みとともに、各種の資料提供や生涯学習の機会を提供しています。図書館の利用状況は、平成 27 年度現在、年間入館者数は 149,120 人、年間貸出利用者総数は 53,823 人、年間貸出総数は 265,257 冊で、その推移は近年ほぼ横ばいとなっています。

次世代を担う子どもたちに対しては、乳児健診時に絵本を無償で提供するブックスタートやおはなし会等を実施し、子どもの読書を推進しています。

これら生涯学習の会場となっている文化センター等の多くの施設においては、老朽化が進行しており、地域での学習の場を確保していく視点からも、適正な配置とその維持管理が課題となっています。

■ 図書館の利用状況

	海津図書館			平田図書館			南濃図書館		
	貸出点数 (冊)	貸出利用 者数 (人)	入館者数 (人)	貸出点数 (冊)	貸出利用 者数 (人)	入館者数 (人)	貸出点数 (冊)	貸出利用 者数 (人)	入館者数 (人)
平成20年度	131,531	28,469	90,246	110,234	21,300	69,307	12,607	3,250	15,138
平成21年度	137,596	28,424	90,175	117,011	21,970	76,761	13,540	3,486	17,440
平成22年度	134,170	27,541	85,265	118,144	22,001	76,698	12,316	3,142	15,522
平成23年度	130,006	26,442	82,696	115,281	20,915	70,485	15,500	3,695	17,571
平成24年度	123,658	23,411	73,675	120,263	20,547	69,953	14,868	3,242	15,923
平成25年度	125,798	24,646	73,299	127,223	21,691	67,000	12,376	2,902	13,547
平成26年度	130,543	28,257	74,209	118,449	21,575	62,709	13,129	3,308	12,677
平成27年度	128,720	27,741	74,533	123,520	22,834	61,112	13,017	3,248	13,475

資料：図書館

■ 基本方針

市民が生涯にわたって生きがいを持ち、文化的で心豊かな生活を送ることができるよう、各種学級・講座等の機会の創出や指導者の発掘・育成を推進します。

■ 施策の方向

1. 生涯学習の講座等の充実

市民一人ひとりが学びたいという要求に基づき、自発的に学習が展開できるよう、ライフステージに応じた学習課題を分析し、市民の学習ニーズの把握に努めながら、生涯学習の多様な講座内容の充実を図るとともに、誰もが参加しやすい環境整備を推進します。

また、学習活動を支援する人材の活用として、これまで学習修得者が培ってきた技術やノウハウを還元できるよう人材登録を促進し、指導者の発掘・育成に努め、市民の学習ニーズに即した講座等の開催を推進するとともに、自主的なクラブ・サークル活動等の学習を行う団体の育成、支援に努めます。

2. 読書活動の推進

生涯学習活動を支援する情報拠点である図書館において、蔵書や資料の充実を図るとともに、多様な資料請求に迅速かつ的確に対応できる検索システムの充実やインターネットを活用した市民サービスを推進し、利用の促進を図ります。

本に親しむ市民の増加を図るため、新刊書の紹介、NPO やボランティア団体と連携した読書会や「絵本の読み聞かせ会」等の図書館イベント開催の充実を図ります。また、子どもが小さい頃から本に親しめるよう、乳児健診時に絵本を無償で提供する「ブックスタート事業」の取り組みを継続します。

3. 生涯学習施設等の整備・ネットワーク化

生涯学習センターや図書館、公民館等の生涯学習施設について、改修等により充実に努めるとともに、市民の身近な学習機会の確保や公平性を考慮しながら、施設の統廃合やネットワーク化の検討を図ります。

個別計画 海津市生涯学習基本計画 / 海津市子どもの読書活動推進計画

成果指標	現状値	目標値 (H33)
生涯学習講座 受講者数	1,311人(H27)	1,800人
市立図書館貸出数	265,257冊(H27)	275,000冊

3-3 青少年の健全育成支援

■ 現況と課題

青少年を取り巻く環境として、核家族化や少子化の進行、共働き世帯の増加等を背景に、親子の接触機会の減少や地域における連帯感や帰属感の希薄化、家庭や地域での教育力の低下が指摘されています。また、青少年の抱えている問題は、少年非行・犯罪の低年齢化、家庭内の暴力や虐待、いじめや不登校、引きこもり、ニートの増加等、複雑化、多様化しています。

特に近年は、情報通信機器の普及により、ネットトラブルに巻き込まれる事件・事案が増加傾向にあります。青少年の健全育成のためには、家庭や学校、地域、市が連携を図り、青少年が健やかに育つ環境づくりに努める必要があります。

本市では、成人の集い事業(成人式)の企画運営や子ども会育成会をはじめとする、青少年健全育成団体の活動などを通して、同世代とのふれあいや社会との接点の場をつくり、連帯感の創出や社会参加意識の向上を促しています。

また、青少年育成市民会議と連携しながら、青少年の健全育成活動を推進しています。小学校区ごとに青少年育成推進員を配置し、地域の実態に即した実践活動の展開を目指していますが、各地区の行事参加や活動状況に差があります。

子ども会の活動においても、子どもの減少や地域での子どものつながりが弱まる中、活動も停滞傾向になっており、今後、子ども会活動の活性化を図るため、育成指導者やジュニアリーダーを育成するとともに、地域行事や各種活動との連携を強める必要があります。

今後も、青少年の社会参加の機会や主体的な活動に対する支援の充実、青少年育成市民運動の普及、市や地域ぐるみで青少年を見守り育む環境づくりに努めることが課題となっています。



■ 基本方針

世代・地域・心のつながりを強化し、青少年が健やかに育つため、愛情と思いやりに溢れた生きる喜びを感じることができる環境の充実を推進します。

■ 施策の方向

1. 青少年の社会参加の促進

新成人が自ら企画する「成人の集い」の開催等、青少年が同年代の仲間と交流できる機会や場の提供に努めるとともに、市内で行われている文化や芸術、スポーツ、ボランティア等の様々な活動の場への青少年の参加の促進を図ります。また、市内の学校の代表者が集まる「スクールサミット」を開催し、自分たちの手で、より良い青少年の健全育成を促進します。さらには、子ども会活動の支援強化を通じ、子どもの健全育成を推進します。

2. 地域の見守り体制の確立

「地域の子どもは地域で守り育てる」の意識のもと、青少年育成推進委員の活動の周知や「地域のおじさん・おばさん運動」の登録者数の増加に努めるとともに、青少年への日常的な見守りや声かけを促進し、身近に相談できる大人がいる地域社会を目指します。

また、補導活動等により青少年の非行の未然防止に努め、家庭や学校、地域等の連携による、地域ぐるみの健全育成活動を推進します。

成果指標	現状値	目標値 (H33)
成人の集い参加率	78.7%(H27)	85.0%
単位子ども会会員数	4,346人(H27)	4,000人
地域のおじさん・おばさん運動 登録者数	306人(H27)	350人

3-4 文化の振興

■ 現況と課題

余暇時間の増大や生活水準の向上等に伴い、日常生活の中で「心の豊かさ」を求めるニーズが高まっています。

本市では、優れた芸術に触れる機会として、舞台芸術鑑賞等を開催し、市民の精神的な充足と、文化・芸術活動に対する興味や関心、活動意欲の向上を図っています。

また、市民や文化関連団体が中心となり毎年、市民文化祭を開催しており、文化・芸術にふれる機会、日頃の文化活動を発表する機会となっています。

今後も、集客力の改善や財政的な工夫を行いながら、より幅広い多くの市民の参加と、文化芸術に対する関心の向上を図っていくことが求められます。

一方、市内には、地域の歴史に根ざした数多くの文化財や史跡があり、伝統行事として全国的に有名な「今尾左義長」をはじめ、「御殿万歳」等の伝統芸能が各地域で継承されています。本市の歴史や先人の知恵を学ぶ場所として、歴史民俗資料館やさぼう遊学館が整備されています。

郷土の歴史文化を守り、後世に正しく継承していくためには、これらの文化財や史跡、伝統芸能を適切に保存、管理継承、活用、公開を図っていく必要があります。

今後も、市内に所在する指定・登録文化財を適切に管理し、さらなる文化財等歴史資料の調査や掘り起こしを進めるとともに、未調査遺跡の発掘実施や伝統芸能の後継者育成等を目指していく必要があります。また、歴史民俗資料館等で魅力ある展示や企画を目指し、郷土文化を広く市民に普及していくことが課題となっています。



■文化財一覧

市指定文化財

種別	番号	名称	数量	所在地	指定日
史跡	1	駒野城跡	1	南濃町駒野	S31.8.20
	2	氏冢ト全の墓	1	南濃町安江(碑) 安江(塚)	〃
	3	東天神古墳	1	南濃町駒野	〃
	4	行基寺古墳	1	南濃町上野河戸	S31.10.25
	5	志津三郎兼氏住居跡	1	南濃町志津	〃
	6	今尾渡し道標	1	平田町今尾	S51.6.15
	7	津屋城跡	1	南濃町津屋	S56.12.16
	8	円満寺山古墳	1	南濃町庭田	〃
	9	狐平古墳	1	南濃町境	H6.2.23
	10	七つ墓	1	南濃町志津	H13.9.5
	11	柑橘翁伊藤東太夫碑	1	南濃町太田	〃
	12	出来山三号墳	1	南濃町吉田	H15.12.15
	13	徳永寿昌墓碑	1	海津町高須	H17.2.22
名勝	1	臥龍山行基寺	—	南濃町上野河戸	S31.10.25
天然記念物	1	志津の養老ナシ	2	南濃町志津	S31.8.20
	2	出来山の千本桜	約450本	南濃町吉田	S34.2.6
	3	ハリヨ	1	南濃町全域	S56.12.16
	4	駒野のイヌマキ	1	南濃町駒野	S63.12.9
	5	諏訪神社のマキ	1	南濃町松山	H2.7.24
	6	杉生神社のヒツバタゴ	1	南濃町太田	H6.2.23
	7	八幡神社のイチョウ	1	南濃町山崎	H6.2.23
有形文化財	1	木彫観音立像	1	海津町油島	S30.9.27
	2	木彫観音立像	1	海津町日原	〃
	3	山越弥陀三尊仏	1	南濃町上野河戸	S31.10.25
	4	古磬	1	〃	〃
	5	時計コレクション	5	〃	〃
	6	七重塔	1	〃	〃
	7	武装半跏像	1	〃	〃
	8	釈迦如来立像	1	〃	〃
	9	阿弥陀如来(頭部)	1	〃	〃
	10	御墨印	1	〃	〃
	11	西願寺山門	1	平田町今尾	S54.9.5
	12	四方織部釉小菊印花文大香炉	1	〃	S60.10.26
	13	黄瀬戸釉狛犬	1対	〃	〃
	14	早川邸	1	平田町三郷	H15.10.15
	15	円成寺の大提灯	1対	南濃町太田	H15.12.15
	16	八手観世音菩薩像	1	海津町日原	H17.2.22
	17	円空仏	1	海津町瀬古	〃
	18	高須別院梵鐘	1	海津町高須町	〃
	19	徳永寿昌・昌重連署状	1	海津町萱野	〃
	20	釈迦如来坐像	1	南濃町庭田	H21.4.9

市指定文化財

種別	番号	名称	数量	所在地	指定日
有形文化財	21	薬師如来坐像	1	〃	〃
	22	大日如来坐像	1	〃	〃
	23	十一面観世音菩薩立像	1	〃	〃
	24	聖観世音菩薩立像	1	〃	〃
	25	阿弥陀如来坐像	1	〃	〃
	26	木造天部像	4	〃	〃
	27	地藏菩薩坐像	1	〃	〃
	28	金廻四間門樋	1	海津町萱野	H27.4.3
有形民俗文化財	1	本町軸	1	海津町萱野	H4.10.1
	2	末広町軸	1	海津町萱野	〃
	3	山車・恵比須神	1	平田町今尾	H6.11.16
	4	本阿弥新田助命壇	1	海津町本阿弥新田	H9.12.12
無形民俗文化財	1	高田の甘酒まつり	-	平田町高田	S54.9.5

国指定文化財

種別	番号	名称	数量	所在地	指定日
史跡	510	油島千本松締切堤	1	海津町油島	S15.7.12
天然記念物	148	津屋川水系清水池ハリヨ生息地	1	南濃町津屋	H24.9.19

国登録文化財

種別	番号	名称	数量	所在地	指定日
有形文化財	10	羽根谷砂防堰堤(第1堰堤)	1	南濃町奥条	H9.9.3
	11	羽根谷砂防堰堤	1	〃	H10.1.16
	155	伊藤家住宅主屋	1	南濃町吉田	H20.3.7
	156	伊藤家住宅収蔵庫	1	〃	H20.3.7

県指定文化財

種別	番号	名称	数量	所在地	指定日
史跡	46	高須藩主歴代墓	9	南濃町上野河戸	S32.7.9
	47	石津薩摩工事義歿者墓	13	南濃町太田	〃
	48	羽沢貝塚	1	南濃町羽沢	〃
	49	庭田貝塚	1	南濃町庭田	〃
	159	春岱今尾窯跡	2	平田町今尾	S51.12.21
	163	今尾常榮寺薩摩工事義歿者墓	1	〃	S56.5.19
天然記念物	12	松山諏訪神社の大クス	1	南濃町松山	S32.7.9
	203	梶屋八幡神社社叢	1	海津町稲山	S58.2.25
	208	杉生神社のケヤキ	1	南濃町太田	H8.7.9
重要文化財	35	板碑	1	南濃町上野河戸	S32.7.9
	42	一光三尊弥陀仏	1	〃	S32.12.19
	432	蛇池宝篋印塔	1	平田町蛇池	S52.11.18
重要無形文化財	41	今尾左義長	-	平田町今尾	S55.1.18

資料:社会教育課

■ 基本方針

歴史・文化を身近に感じられるまちとなるよう、優れた文化・芸術に接する機会の提供に努めるとともに、文化施設の整備、文化行事の活性化、伝統文化の継承、文化団体・グループの育成を推進します。

■ 施策の方向

1. 文化活動の充実

市民が豊かな芸術文化に接することができるよう、舞台芸術鑑賞や音楽鑑賞会、講演会等の優れた芸術文化機会の開催に努めます。市民の自主的な文化活動を行う場や機会の提供を図るなどして支援するとともに、活動の主体となる文化団体やグループ等の育成を図ります。さらには、活動成果を発表する場の提供や歌謡祭、文化展の開催を支援します。また、市民参加型による市民劇など芸術創作活動の奨励や交流機会の充実を推進して、市民の自主的な文化活動の振興に努めます。

2. 文化財の保全と継承

国、県、市指定および登録文化財やその他の歴史文化遺産、伝統芸能等の適切な保存、管理継承、活用を図るとともに、遺跡の調査・研究や、新たな文化財の掘り起こしを推進し、潜在する価値の高い建築物や史跡等の整備・復元に努めます。また、地域に伝わる伝統芸能、行事等についても、今後も掘り起こしを進め、保存活用等への支援を行うとともに後継者の育成を図ります。

学校教育等においては、郷土の歴史や文化を知り郷土愛を深め、郷土学習の機会を提供し、伝統芸能や行事への市民の関心と参加を促進します。

3. 歴史民俗資料館の活動充実

歴史民俗資料館の活動においては、郷土の歴史や民俗資料を収集、整理、保存し、貴重な文化財を次世代へ継承するとともに、魅力ある企画、展示の充実に努めます。また、文化財等を活用した講座や、能や狂言等の公演、体験講座の開催を充実し、生涯学習や郷土学習を通して、郷土の歴史・文化への関心や文化財保護意識の啓発と浸透に努めます。

成果指標	現状値	目標値 (H33)
市内の文化団体の登録者数	1,557人(H27)	1,700人
文化財保存管理件数 (補助管理実施率)	8件 (100%) (H27)	9件 (100%)
歴史民俗資料館 催事1日あたりの来場者数	235人(H27)	250人

3-5 スポーツ活動の振興

■ 現況と課題

市民が生涯を通して健康で生きがいある人生を送るためには、誰もが各々の年齢や体力に応じて、いつでも身近にスポーツを楽しめる環境が大切です。

本市では、スポーツ推進委員や体育振興会、体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等などの関係団体により、軽スポーツ教室やソフトボール大会、運動会等が開催され、市民参加型のスポーツ活動が推進されています。

多様化するスポーツのニーズに応えるため、子どもから高齢者まで年齢にかかわらず、生涯を通して交流を図りながらスポーツを楽しめる、地域性を活かした総合型地域スポーツクラブが、現在、市内に 2 団体設立されています。

地域におけるスポーツ活動の振興のためには、指導員の育成や参加者の停滞、高齢化がみられるスポーツ団体等の活性化が課題であり、また、軽スポーツ教室や運動会等は、幅広い市民を対象としており、高齢者や障がい者(児)を含めたスポーツ活動を、関係団体と協議しながら進めていくことが求められます。

また、平田体育館の耐震補強等、老朽化したスポーツ施設の計画的な改修や長寿命化を、引き続き推進していく必要があります。

一方、本市の地理的適性から特徴あるスポーツとして、ボートやカヌー等の水上スポーツの活動の拠点が、長良川サービスセンター周辺に整備され、利用しやすい環境が整えられており、平成 25 年度より長良川水上スポーツフェスタを毎年開催するなど、これらの競技スポーツ活動の育成が推進されています。東京五輪に向けては、ボートに併せ、カヌー、トライアスロンの事前キャンプの誘致を目指していきます。



■ 基本方針

市民が健康でいきいきとした日常生活を送ることができるよう、スポーツ環境の充実や指導者の養成・確保に努め、誰もが気軽に親しむことができるスポーツ環境の整備を推進します。

■ 施策の方向

1. スポーツ活動の充実

総合型地域スポーツクラブ等の団体が行うスポーツサークルや教室、大会の開催を支援し、多様な世代の健康づくりを推進するとともに、軽スポーツ教室やイベントでの体力測定等の充実を図り、市民の健康づくりへの関心と日常生活の中での軽スポーツ実践の促進に努めます。

また、子どもの健全育成のため、スポーツ少年団等のチームスポーツ活動への支援や、学校部活動の活性化を図る他、身近な地域で親子、家族で参加できるイベント等の充実や、障がい者(児)のスポーツ機会の充実を図る等、市民のライフスタイルやライフステージに応じて参加できる、スポーツ活動機会の充実を推進します。

2. スポーツ施設・備品の充実

既存の体育施設の耐震化や適切な維持管理、利用のネットワーク化を図るとともに、学校の体育館の有効利用を推進し、また、ウォーキングや体操等の軽い運動が安全に行える道路、公園等の環境整備を進め、市民が利用しやすいスポーツ環境の充実を図ります。また、スポーツ備品の充実や貸出により、市民や団体のスポーツ活動への参加を支援します。

国が管理する長良川サービスセンターについては、市民が利用しやすくなるよう、関係機関との協議を進め、水上競技スポーツ活動への関心と参加機会の創出を推進します。

3. 指導者・団体の育成

市民がスポーツに親しみ、技術が向上できるよう、スポーツ指導者研修の充実を図ります。また、市民のニーズに合った指導が行えるよう、指導者間の情報交換・共有を支援します。

体育協会等の既存のスポーツ団体・クラブの活動内容に対する支援を行うとともに、団体間の連携の促進による運営の効率化や、団体等の統廃合、法人化等を検討し、持続可能な組織への転換を支援します。また、総合型地域スポーツクラブについては、クラブマネージャーや指導者の資質向上、自主運営への働きかけ等クラブの育成を図ります。

個別計画 海津市スポーツ推進計画

成果指標	現状値	目標値 (H33)
スポーツ推進委員の活動回数 (軽スポーツ教室、各種研究大会参加)	37回 (H27)	40回
体育大会参加者数	1,143人 (H27)	1,500人

3-6 地域間交流・多文化共生の推進

■ 現況と課題

異なる地域と交流することは、その地域の文化、そこで暮らす人々の生活への理解を深めることです。広い視野から自分たちの地域を見つめ直し、改めてその価値や大切さを実感できる機会でもあります。情報化社会においても、人と人が直接会って交流を図ることは重要です。

国内交流としては、歴史的なつながりをもつ鹿児島県霧島市と姉妹都市関係にあり、また、山形県酒田市とは友好都市関係で、両市とは、教育・産業分野で交流を展開しています。ホームステイで霧島市と中高生の相互訪問を、酒田市と小学生の相互訪問を行ってきましたが、近年は参加者が減少しており、ホテル宿泊型の交流等、新しい交流の在り方を模索しています。今後も、交流活動の情報発信等を強化し、周知していく必要があります。

国際交流としては、中華人民共和国江西省と友好関係にあり、訪問団の受け入れ、外国人技術研修生の受け入れ、地元企業の江西省進出等、教育・経済分野での交流が行われてきました。

一方、平成 28 年 4 月 1 日現在、本市の外国人住民数は 555 人であり、本市人口の僅か 1.5%程度と、それほど多くありません。国籍別で見ると、中国が全体の 42%を占め最も多く、次いでベトナム 14%となっています。それ以外の外国人の割合も高くなってきており、本市においても多様な文化の流入が進行しつつあるといえます。

言葉の違いによるコミュニケーション不足や、文化・考え方の違いによる理解不足等により、外国人住民と日本人住民との間に壁が生じる場合も少なくありません。今後も、生活情報の提供や相談体制の充実、地域住民との交流の促進により、外国人と日本人が互いに尊重され共生しやすい環境の整備を図っていく必要があります。

今後も外国人が必要としている仕事や保健、医療、福祉等の行政サービス情報の提供を、多様な言語、多様なチャンネルで発信し、充実を図っていくことが課題となっています。

また、新たな幅広いグローバルな視野をもって交流できる人材育成のため、積極的な国際交流の推進に努める必要があります。

■ 外国人住民数の推移

各年4月1日現在	
	外国人登録者数(人)
平成20年	649
平成21年	627
平成22年	571
平成23年	565
平成24年	530
平成25年	527
平成26年	516
平成27年	530
平成28年	555

資料：市民課

■ 国籍別外国人住民の割合

各年4月1日現在		
	平成23年	平成28年
中国	64%	42%
ブラジル	12%	8%
フィリピン	5%	4%
韓国・朝鮮	5%	4%
ベトナム	5%	14%
ペルー	2%	3%
ネパール	2%	3%
パキスタン	1%	6%
カンボジア	0%	8%
その他	4%	8%

資料：市民課

■ 基本方針

市民が幅広く、グローバルな視野をもてるよう、国内外都市や交流団体との連携等により、異文化の理解・経験や多様な国際交流を推進します。

■ 施策の方向

1. 地域間交流の充実

姉妹都市である鹿児島県霧島市、友好都市である山形県酒田市との地域間交流について、市民の関心と参加を高める情報発信に努め、交流活動を通じて、相互の文化や歴史、習慣等を学び、友情や理解を深め、両市の友好、親善を推進します。特に若い世代に対し、交流活動への参加の環境づくりを整備し、幅広い視野を持つ人材の育成に努めます。

2. 多文化共生の推進

市民の国際感覚の醸成や国際交流への気運を高めるため、中学生、高校生の海外研修を支援し、自主的な国際交流を奨励・推進するとともに、中高生を市との関わりの深いオランダへ派遣し、現地中高生との交歓・交流を通じ、国際的視野を広め、多文化社会を支える人材づくりに努めます。

また、外国人住民に対して、外国語による生活情報の提供や生活相談の充実など、地域においても孤立しない多文化共生社会を目指します。

成果指標	現状値	目標値 (H33)
霧島市生徒交流事業 参加率(応募者数/定員)	100%(H27)	100.0%
酒田市児童交流事業 参加率(応募者数/定員)	92.0%(H27)	100.0%



